

関西大学博物館蔵 磨製石剣 2点について

| | |
|-----|---|
| 著者 | 金 大珍 |
| 雑誌名 | 阡陵：関西大学博物館彙報 |
| 巻 | 63 |
| ページ | 12-13 |
| 発行年 | 2011-09-30 |
| URL | http://hdl.handle.net/10112/00023900 |

関西大学博物館蔵 磨製石剣2点について

金 大 珍

関西大学博物館には、網干善教名誉教授の紹介により奈良県大和高田市在住の篤志家から平成9年に寄贈された朝鮮半島出土の石剣2点がある。ここでは、この磨製石剣を紹介したい。

写真1奥の磨製石剣Aは、黒色泥岩製であるが全面が風化して明灰色になっている。片面に泥岩の石理を見せ、特に柄部片面は装飾的な様相となる。全長38.0cm、刃部長26.3cm、刃部厚最大15.1cmで、剣先から刃部まで断面が菱形に見事に整えられている。顕著な使用痕などは認められない。青銅製剣を大きくデフォルメして柄部が変形し、鏢部で幅15.0cm、柄尻でも推定幅15.0cm程度に伸延されている。柄握部が丸められておらず、角張っていることから未製品とも考えられる。

写真1手前の磨製石剣Bも、黒色泥岩製であり全面が風化して明灰色になっている。片面に装飾的効果を意図したかのように泥岩の石理面を大きく残す。全長31.9cm、刃部長24.0cm、刃部最大幅52.5cm、柄部長9.2cm、幅7.2cmを測る。断面は石理面を除いて菱形となっている。その形状は青銅剣の特徴をそのまま写している。



写真1 石剣(奥:A 手前:B)

両磨製石剣とも石灰華の付着状況などに疑問もあるが、朝鮮半島南部の磨製石剣に特有の黒色泥岩を使用しており、全表面が安定した風化面に覆われていることから、偽物である可能性は排除できる。

磨製石剣は、青銅器文化期の青銅製剣を模し

た石器であり、主に紀元前7～8世紀から紀元1世紀頃に盛行した。朝鮮半島では、磨製石剣は約200ヶ所以上の出土があり、支石墓、石棺墓や集落などで出土している。日本列島の磨製石剣は、縄文時代晩期から弥生時代前期にかけて見られるが、主な出土範囲は九州北部に集中し、西日本に限定される傾向がある。

磨製石剣の柄の作り方で大きく二つに分けられ、柄の部分まで含んだ剣全体を一つの石材から作りだしたものを有柄式、柄に木材などをつけて使用するものを有茎式とされる(有光1959)。朝鮮半島北部には有茎式磨製石剣の出土が多く、南部に行くにつれて有茎式磨製石剣は減少する反面、装飾性が高い有柄式磨製石剣の出土が多くなる。

関西大学博物館の磨製石剣Aは、柄部の突出が大きい装飾性の高いものであり、韓半島でも支石墓で有名な金海茂溪里遺跡と釜山槐亭洞遺跡で類似するものが出土している。金海茂溪里遺跡(金1963)は長幅2.3m×1.2mの大きさを持つ支石墓で、出土した磨製石剣は全長46cmである(写真2)。磨製石鏢8点、青銅鏢3点、官玉3点が出土し、青銅時代後半の遺跡とされる。釜山槐亭洞遺跡(鄭1977)の支石墓は一部破壊されており、現存で長幅1.8m×0.7mとなっている。紅陶、磨製石鏢、磨製石剣などが出土している。

両遺跡とも釜山地域にあることから、関西大学で収蔵されている磨製石剣Aは朝鮮半島南部の青銅器文化と密接な関連性を持っているといえる。

磨製石剣Bは韓半島の中部から南部にかけての地域で代表的に扶餘松菊里遺跡(安・金1975)、寶城徳峙里支石墓群(尹1988)などで出土するものと類似する(写真3)。扶餘松菊里遺跡は、土器や磨製石鏢、甕棺墓、曲玉、銅剣などが出土した大規模な集落遺跡として知られている。寶城徳峙里支石墓群も同じく銅鏢、石鏢などが出土している。磨製石剣Bから、青



写真2 金海茂溪里遺跡出土石剣 (金1963)



写真3 寶城徳峙里遺跡出土石剣 (尹1988)



表面



裏面

写真4 石剣

銅器文化の地域を限定するのは難しいが、磨製石剣Aと同様に支石墓から出土する傾向が見られるので、朝鮮半島南部のものである可能性が高い。

今回紹介した関西大学博物館が収蔵する2点の磨製石剣は、朝鮮半島のもっとも特徴的な石剣である。これに類似する石剣が九州を中心として日本列島でも発見されている。朝鮮半島の青銅器文化から日本列島の弥生文化へという流れを考える上で非常に重要な役割を果たすであろう。

磨製石剣は、時代の変遷や地域文化の差を敏感に反映した出土状況を示しており、これを研

究することによって機能や社会的意味の変化を把握できる重要な遺物であると考えられる。今後、類似する遺跡や出土遺物などの比較を行い、さらに東アジアの石剣について研究をおこなっていききたい。

参考文献

- 有光教一 1959 『朝鮮磨製石剣の研究』 京都大学文学部考古学叢書第2冊
- 尹徳香 1988 「徳峙里신기支石墓」 『住岩담水没地域文化遺跡発掘調査報告書』 III
- 金元龍 1963 「金海茂溪里支石墓의 出土品」 『東亞文化』 1
- 鄭澄元 1977 「釜山槐亭洞遺壘棺墓」 『考古學』
- 安承周, 金永培 1975 「扶餘 松菊里 遼寧式銅檢出土 石棺墓」 『百濟文化』 7

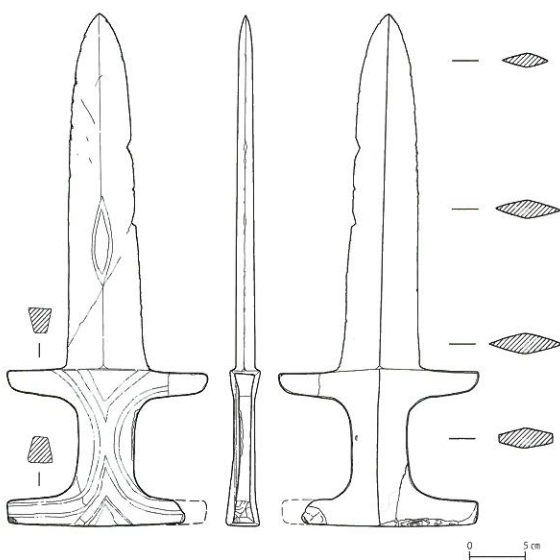


図5 石剣A実測図

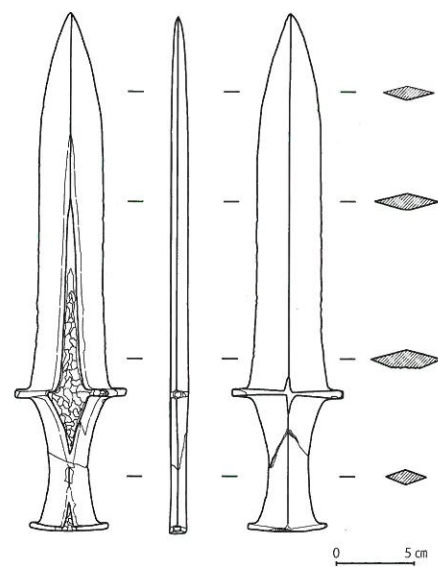


図6 石剣B実測図